

全世界 1.1 億人に選ばれた 名刺管理ソリューションの法人版が登場！

— わずか 1 年で 1,000 社以上導入の魅力とは —

名刺情報の共有がビジネスの課題を解決

日本ではビジネスの場で初めて会った人と名刺交換をする。そして、この名刺の蓄積が社会人としての人脈に繋がるため、たいていはなんらかの形で自分なりに名刺を整理しているはずだろう。しかしその実情は、紙の状態ファイルに管理しているだけであったり、社内共有されずあくまでも個人での管理であったり、という場合も多い。また、名刺管理手法として 2010 年頃から注目されている、スマートフォンやタブレットから利用できる名刺管理アプリ。名刺をスマートフォンで撮影すると自動的に文字が認識され、名簿が作れるという利便さで、こちらを利用して個人で管理している方も多いのではないだろうか。

だが、そこにはいくつか懸念点がある。名刺は個人情報であるため、紙の状態での管理では、情報漏えいのリスクがある。また、個人が管理している状態だと情報が属人的になり、営業担当者が個人商店的な動き方をするという問題も存在する。結果、組織として活用できない上、その人が退職した時には企業に何も情報が残らない状況となってしまう。



キングソフト 法人マーケティング
Div. ディレクター
鈴木健彦氏

マーケティング Div. ディレクターを務める鈴木健彦氏だ。

「個人でのアプリ利用も自分で使用する分には便利ですが、法人版のソリューションを導入すれば、社内での情報共有や管理が可能になります。名刺を管理したいという需要にはもちろん、SFA・CRM システムへの顧客登録の負担を軽減したいというような目的にも有効です」と語るのは、キングソフトで法人

実際に、法人での名刺管理ソリューション導入率は右肩上がりに伸びており、富士キメラ総研「2015 法人向けスマートビジネス関連ビジネスの全貌」によれば、2015 年から 2016 年にかけて 30% の成長があったという。さらに今後も、2017 年に向けて 40% 程度の伸びがあるのではと予想されているため、法人単位

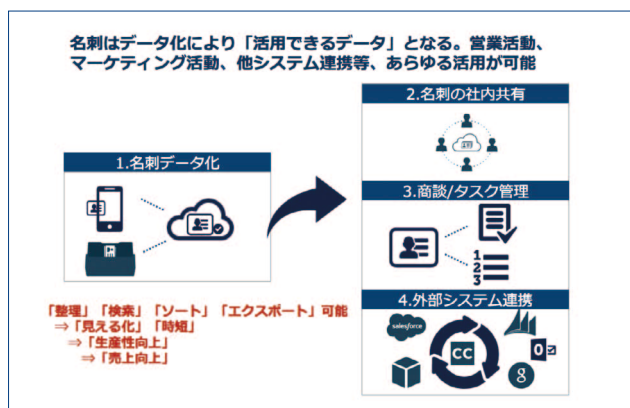
での名刺管理を始める良いタイミングといえるだろう。

全世界 1.1 億人が使う名刺アプリの法人版は 高速 & 簡単

そこで今回紹介したいのが、キングソフトが提供している「CAMCARD BUSINESS」だ。同ソリューションは、キングソフトが個人向けアプリとして提供している「CAMCARD」の法人版となっている。「CAMCARD」は、全世界で 1.1 億人以上に利用されており、iOS 版、Android 版ともに多くの受賞歴を持った実績あるアプリであり、その法人版とあって信頼性も高い。その証拠に鈴木氏は、「2014 年 10 月のリリース以来、すでに 1,000 社以上で導入されています。SOHO から大手企業まで、企業規模も業種も問わず多くのお客様から好評です」と語る。

CAMCARD BUSINESS はスマートフォンで撮影、もしくはスキャナで取り込んだ画像から OCR で文字を読み取ってデータ化する。それで不足した部分は、人によるチェック（人工補正）で修正する。そのような名刺アプリの基本機能に加えて、法人利用で必要となるユーザー間でのデータ共有機能が備わっている。また、入力したデータを Excel 形式でエクスポートすることも可能であり、名刺管理に必要な機能をしっかりと押さえている。

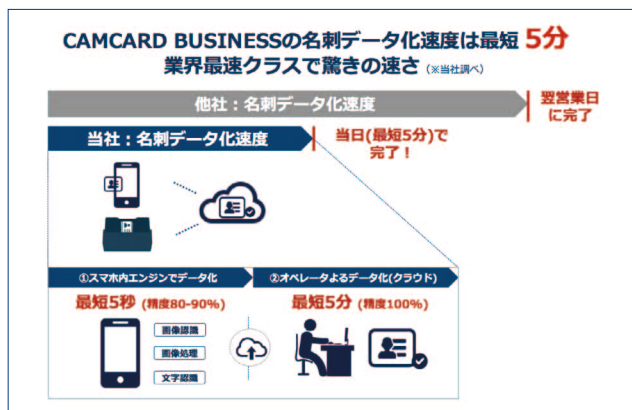
「商談やタスクの管理ができるので、SFA のような役割として利用することも可能です。また Salesforce、Microsoft Dynamics、SugarCRM との連携ができますし、Gmail や Outlook の連絡先とも連携が可能です。『すでに導入してあるツールと上手く連



法人名刺管理に必要な基本機能をカバー

携わせて使いたい』、『名刺管理ソリューション自体はシンプルであってほしい』というお客様に特に好評です」と鈴木氏は話す。

また、同ソリューションの一番の魅力は、データ化の速さである。画像からのOCR処理はスマートフォン内なら5秒程度で完了するため、処理を待つという感覚がほとんどない。というのも、このスムーズさと正確さを提供するために、スマートフォン内の機械認識には160以上の特許取得技術が盛り込まれているのだ。また、必要に応じてオペレータによる手動補正を依頼でき、こちらを含めても最短5分程度で終わるといふ。



最短5秒の機械認識とオペレータ入力を含めても最短5分

「名刺情報を手入力すると1枚あたり3分ほどかかります。20枚なら1時間かかり、20人の営業社員がいれば20時間かかっているわけです。この見えないコストが90%以上削減できます。たとえば、展示会等で取得した名刺に対するフォローが翌日には可能になるなど、今まではできなかったことも可能になるのです」と鈴木氏は同ソリューションのスピードがもたらす効果を強調し



見えない営業コストの90%以上を削減可能

た。

また、こうした機能が非常に簡単に利用できるというのも大きなポイントだ。多くの個人ユーザーによって磨かれてきたインターフェースは誰にとってもわかりやすく、法人版でも機能が絞り込まれているため直感的に操作ができる。

「データ化の速さや大多数の企業が実際に必要とする基本機能をきちんと備えつつも、広く企業のインフラとして利用して頂きたいという想いから、導入の負担を下げてください提供しています。また、ITリテラシーの高さも必要としないので、IT担当者が不足している中小企業の方でも気軽に利用することができます」と鈴木氏は機能面でも導入しやすいことを語った。

各企業の使用状況に合わせた3つのプラン

CAMCARD BUSINESSには3つのプランがある。最低利用ユーザー数1人の違いもあるが、最も大きな違いは、基本価格(月額)に含まれる1アカウントあたりの入力補正枚数だ。基本の入力補正枚数が0枚の「ENTERPRISE」は1アカウントあたり月額300円と非常に安価だが、最も加入数が多いのは1アカウントあたり月額1,200円で1か月20枚の補正サービスが含まれた「STANDARD」だ。

「日本の一般的なビジネスパーソンが1か月で新たに手にする名刺の数は20～30枚程度だという調査結果がありますので、それを元に20枚のSTANDARDプランと50枚のPROFESSIONALプランを作りました。一時的に枚数が増える月には100枚単位で追加購入もできます」と鈴木氏。

多くのユーザーがちょうどよい感覚で利用できるよう、プラン設計が行われているのは嬉しいところだ。また、月額コストが低だけでなく最低利用期間が3か月からとなっており、支払いも月単位で行えるため気軽に始めることができる。

「ご契約いただいた初月は無料ですし、トライアルも用意しています。こういったツールは実際に使って体感しないと十分に価値を実感できないため、まずはお気軽に10日間の無償トライアルをぜひお試しください」と鈴木氏は語った。